

病虫害発生予察指導情報

(ナシ・クワコナカイガラムシ No. 2)

平成30年7月2日
鳥取県病虫害防除所

1. 情報の内容

クワコナカイガラムシ第一世代幼虫のふ化が平年より早い6月30日（平年：7月5日）に始まった。昨年、果実被害が多く認められた園では防除を徹底する必要がある。

2. 情報の根拠

- (1) クワコナカイガラムシ第一世代幼虫のふ化*が平年より早い6月30日（平年：7月5日）に認められた。
- (2) 向こう1か月の気象予報及び調査卵のうの様子から、第一世代幼虫のふ化最盛日は、平年よりやや早い7月5日頃（平年：7月10日）と見込まれる。

*クワコナカイガラムシ第一世代卵のうからのふ化は、百葉箱内（園試）で観察。卵のうをシャーレ中央に静置し、その周囲に粘着物質を塗布、その粘着物質に捕獲された幼虫数を計数。卵のうは野外で採取。

3. 防除上注意すべき事項

- (1) 昨年被害の多かった園及び多発園では、5～10日間隔で発生状況を確認しながら次の時期を目安に2回の防除を行う。

幼虫ふ化最盛期	7月 5～9日
幼虫ふ化終期	7月10～14日

少発園では7月9日前後に1回防除を行う。
- (2) 薬剤はモスピラン顆粒水溶剤4,000倍液、ダイアジノン水和剤34の1,000倍液、スミチオン乳剤1,500倍液などを使用し、連用を避けて輪番散布する。
- (3) 薬剤の散布に当たっては、カイガラムシが集合する枝葉の他、枝の切り口、粗皮などにも十分にかかるようにする。
- (4) 農薬の散布にあたっては、農薬の使用基準を遵守する。